

2024年度第1学期始業式校長挨拶（20240409）

皆さんおはようございます。

新入生も加わって、2024年度が始まりました。今日は雨風、登校は大変だったでしょう。今年は例年になく桜の花の開花が遅く、ちょうど始業式に会うタイミングで満開になりましたが、今日の強風で桜吹雪も舞い始めたことと思います。

まず、この春休みなどに活躍した武蔵生の様子についてご紹介します。

まず高校2年生。昨年この時期にご紹介しましたが、この3月24日に福井県鯖江市で開催されたサイバーサクラ決勝ラウンドに出場。これはサイバーセキュリティの分野での技量を競うもので、昨年は優勝とのことで、今年は連覇がかかりましたが、惜しくも第2位。準優勝となりました。立派です。おめでとうございます。今サイバー攻撃は、それひとつで世界を混乱に陥れさせられてしまうことから、それをどう防御するかというのは安全保障上の最重要課題です。そうした領域に、武蔵生がチャレンジしていることは素晴らしいですし、今回は実は新中3・中2の生徒諸君もチームを結成し、見事予選ラウンドを突破して、鯖江市で行われた決勝ラウンドでは4位に食い込んだとのことです。おめでとうございます。

続いて高1生。2月に実施された第3回日本天文学オリンピック大会本選において、見事銀賞を受賞しました。さらに中学生だけで見るジュニア部門では最も優秀な生徒に送られるジュニア最優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。今後は楽しみです。慢心することなく、さらに自分の興味関心を掘り下げて行ってほしいと思います。おめでとうございます。

最後に部活動の活躍です。民族文化部です。民族文化部が武蔵で所蔵・保管してきた土器の一部が、このたび練馬区の登録有形文化財になりました。この文化財の名称は、「北新井遺跡出土の縄文土器」です。これは今から88年前、はるか昔昭和11年に、当時の民族文化部員が考古学者の山内清男（やまのうちすがお）先生の指導のもと、武蔵の敷地内で発掘調査を行ったもので、もともとは33の土器片でしたが、このたび練馬区が見事な土器の姿に復元。この認定調査に民族文化部の部員の皆さんが協力されたとのことです。復元した土器は、石神井ふるさと文化館で6月23日まで展示されているとのことです。興味のある生徒諸君は見にいかれると良いと思います。民文の皆さま、お疲れさまでした。

さて、2024年度始業にあたり、私のほうからは、この1年間の意気込みと、関連し

て武蔵の自由について及び皆さんへの期待について、お話をしたいと思います。

私は武蔵の校長として母校に呼ばれて6年目になりました。高3生と一緒にですね。そして武蔵に戻ったときに「新生武蔵」という旗を掲げました。これは武蔵が100年続いてきた武蔵の良さ・強みを生かしながら、高慢な気持ちに陥ることなく進化していこうというものです。この間、コロナへの対応など大変なこともありました。皆さんのおかげで、確実に良い方向に向かっていると思います。今年はさらに、プラス思考でどんどん「良い循環」が回っていくといいなあと思っています。「やっぱり武蔵すごいねえ」という声があちらこちらから聞こえてくるような1年になるよう、努めていきたいと思っています。

さて、その武蔵の良さ、武蔵の強みを考えるうえで、「自由」の問題は外せないと思います。そこで、「自由とは何か」という話をしたいと思います。

武蔵は自由な学校だとよく言います。同時に武蔵の自由とは何かということも、長い武蔵の歴史の中で、代表委員会などを中心に、これまでもたびたび問われてきました。

「自由とは何か」。一体どのように定義ができるでしょうか。

実は今から54年前。私が武蔵に入学した中1の国語の授業は、「自由とは何か」という授業でした。すべての生徒がこの問いについて作文を書き、それを毎回発表し、討論するという授業が1年間続きました。

詳細なことは覚えていませんが、でもなんとなく議論の道筋は覚えています。まず自由というと、束縛もなく好き勝手にできるのが自由という議論から始まりました。次に考えが進んで、でも人間は1人で生きていない社会的存在だからそうはいかない。だから自然的自由とは違う社会的自由があり、自由は制限を受けるという話になりました。

それでは誰が制限をするのか。力をもった権力が制限をするのか。その権力の正当性はどこから生まれるのかという話になりました。

一方で、別の考え方として、権力による制限ではなく、自分たちで制限できないか。そもそも自由は他者から与えられるものではなく、自らが選択するところに自由があり、その自由は責任を伴うものではないか。そんな議論の流れだったと思います。

あとになって思うと、何も知識はなかったけれど、中1とはいえ、本質に迫る良い議論

をしていたと思います。そこで話していたことは、のちに社会の授業で学んだ「社会契約論」の考え方であり、「実存主義」の考え方でした。結局、「自由とは何か」という問いに対する正解は出なかったけれど、自分たちであれこれ考えること自体が、まさに自由だったのかもしれない。

そこで改めて武蔵生に聞きたいと思います。「自由とは何か」。皆さんはどう定義をしますか？

この問いを、昨年度中1の道徳で行いました。2つの質問をしました。

問1は、自由とは何か。定義をし、そう定義をした理由について述べよ。

問2は、自由の抱える課題は何か。それを克服するためにどうしたらよいかを述べよ。

いい答えがいっぱいありました。今日は上級生もいますが、ここで中1生の答えも紹介しながら、「自由とは何か」という定義を試みてみたいと思います。

私は、自由の定義に際しては、2つの視点があると思います。まず1つ目は手続的な視点。誰が決定するのかという視点です。自分で決める、自己決定ということです。

中1諸君の答えを見ると、例えば、自由とは「やりたいことをやること」「自分自身の考えで行動できること」「制約や拘束から解放され、自己の意志や選択に従って行動できること」という答えが出てきます。「自分が決める」ということ。私はそれは自由を定義する「第一要素」だと思います。

でも、それはひょっとすると足りないかもしれない。自分で決めたら何でもよいのか。さらに「本当の自由とは何か」と問うと、自由によって、勝手きまま、やりたい放題、人のことはどうでもよいという無政府状態では「本当の自由」とはいえないという指摘が出てきます。つまり、そこに「責任」の問題が出てきます。「自分で決めたことに責任を負う」という「セルフコントロール、自己規律」、これが自由の定義の「第二要素」だと思います。著名な哲学者であるドイツのカントは自由について徹底的に考え、今お話しした「自律的存在であること、自分を律する存在であること、言い換えれば自分がたてたルールに自分で従うことこそ自由である」と考えました。

第一要素に第二要素が加わった答えとして、中1諸君の答えを見てみると、例えば、「他人に迷惑をかけない範囲で、自分の好きなことをできること」、「自分で自分を律することができたうえで、自分が行いたいことを行える状態」、「自分で規律を作り、その範囲

で行動すること」、「自分で考えて自分で行動し、その行動に責任を持つこと」という定義になります。これらは自由の定義の第一要素と第二要素が加わっているものだと思います。

さらに、ちょっとユニークな定義としては、「人が他人のことを思いながら楽しく暮らす権利」とか「責任ある身勝手」というのもありました。これも個性的な表現ですが、今お話しした第一要素と第二要素について考えている定義だと私は思います。

さて、改めて「自由とは何か」。最後に、私が、色々な人の自由の定義を見ている中で、「そういうことか」と感心したある人の自由の定義を紹介します。

これは武蔵と同じ自由な校風をもっている麻布出身で、長く文部科学省の役人として仕事をされた前川喜平さんという方の定義です。

「自由とは人が自らの意志で、生きるに値する人生を生きるということである」

そうですね。まず「自らの意志で生きる」という自己決定の第一要素と、そして「生きるに値する人生を生きる」という自己規律の第二要素が見事に入っています。

それでは、「生きるに値する人生」とは何だろう。それは为什么呢。ここが味噌ですね。そこについては答えを示していません。自分で考えろということでしょう。

でも、せっかくこの世に生まれてきたんだから、たった一度の人生。生きるに値する人生を、自らの意志で選び歩いていくことが「真の自由」なんだと思います。そして、それは、その気があれば本人の気持ち一つ、やる気次第だと私は思います。

ぜひ、そうした「真の自由」を獲得するためにも、まずはこの1年間、生きるに値する1年、価値ある1年を、自らの意志で選びとってほしいと思います。

ただ一言付け加えておくと、今日は語るができませんでした。自由はもろく、厳しい面があります。それは世界中で自由を求める声が弾圧され権力者が強く支配している国や地域の状況を見るとよくわかります。また、一見自由そうに見えても、「自由からの逃走」という本もあるように民主国家というところでも様々な課題を抱えているという現代社会の問題があります。自由のもろさや厳しさがあるからこそ、「真の自由」を獲得するためには、日本国憲法に書き込まれているように、「不断の努力」が必要です。

日本国憲法 第97条には、「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年に

わたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。」

自由獲得の努力とか過去幾多の試練という言葉には、先人に対するリスペクトがあると私は思います。「与えられている自由」に甘んじているとわかりませんが、「獲得してきた自由」を守ることは実は大変なことです。武蔵の自由を「真の自由」にしていくためには、一人一人の「不断の努力」が必要だし、その武蔵生の「不断の努力」が、実は現在世界が抱えている諸課題の解決につながっていくと私は思っています。

改めて、この1年間、生きるに値する1年、価値ある1年を、自らの意志で選びとってほしいと思います。

最後に連絡事項2つです。1つは校長面談のお知らせです。

昼休みにやっていた校長面談ですが、昨年度は今の中3まで終わりました。今年度は中2、中1を行いたいと思います。中2の諸君はゴールデンウィーク明けから、中1の諸君は2学期から行います。追って詳しく連絡をしますので、よろしくお願いします。

2つ目は昨年度の終業式のときにもお話をしましたが、創立記念講演会です。

実は4月17日は武蔵の創立記念日で、かつてはその日に「記念式」を行ない、卒業生などによる記念講演会を実施していました。いつしかその伝統は消えていきましたが、昨年度、創立101年目を機に復活しました。創立記念講演会と称して、皆さんの視点をあげてもらえるような、また、心を奮い立たせてもらえるような方をお呼びしたいと考えました。

今年度は4月18日午後の授業をカットして、ここ大講堂を会場に、ジャーナリストの池上彰さんをお呼びしてお話していただきます。質疑応答の時間もとっていただけたらと思いますので、奮って武蔵生らしい鋭い質問を投げかけていただければと思います。

創立記念講演会のあとが記念祭になっていきます。ぜひ武蔵生のホスピタリティを見せていただきたいと思います。

以上で、今年度始業式の挨拶を終わります。ご清聴有り難うございました。